

ドクターが教える



女性のための健康教室



♡ コンパニオン診断 ♡

近年、医学の進歩は目覚ましく、婦人科がんの治療は2017年初頭まで手術、放射線治療、化学療法（抗がん剤）の3本柱での治療が主でしたが、現在は免疫療法や維持治療が加わり、飛躍的に生存率が向上した。

維持治療や免疫療法使用には多くのケースでコンパニオン診断が利用されている。コンパニオン診断とは個別化医療治療薬の適切な選択を行い、より効果的に治療薬が用いられている診断法である。

典型的なコンパニオン診断として、MyChoice®診断システムによる相同組換え修復欠損（HRD）検査が挙げられる。MyChoice®診断システムは固定処理した腫瘍組織検体（FFPE）から単離したDNAを抽出し、HRDを検出するための次世代シーケンシングベースで解析されるコンパニオン診断法である。①

ドクターが教える



女性のための健康教室



コンパニオン診断

BRCA1/BRCA2遺伝子の一塩基バリエーション、挿入および欠失、ならびにタンパク質コード領域およびイントロン/エクソン境界での大規模な再構成バリエーションの定性的検出および分類について評価し、さらに②ゲノム不安定性の状態スコア(GIスコア)の判定を評価する。

GIスコアは、3つのバイオマーカーであるヘテロ接合性の消失(LOH)、テロメアアレルの不均衡(TAI)および大規模な状態遷移(LST)のアルゴリズムによる測定法で、①および②の結果からHRD陽性またはHRD陰性(HRP)を判断する。

HRDと診断された進行卵巣癌治療選択肢として、血管新生阻害剤併用PARP阻害剤(ベバシズマブとオラパリブの併用維持療法)を用い、HRD陰性(HRP)と診断された進行卵巣癌の治療選択肢としてニラパリブ単剤、ベバシズマブ単剤、経過観察が選択される。

ドクターが教える



女性のための健康教室

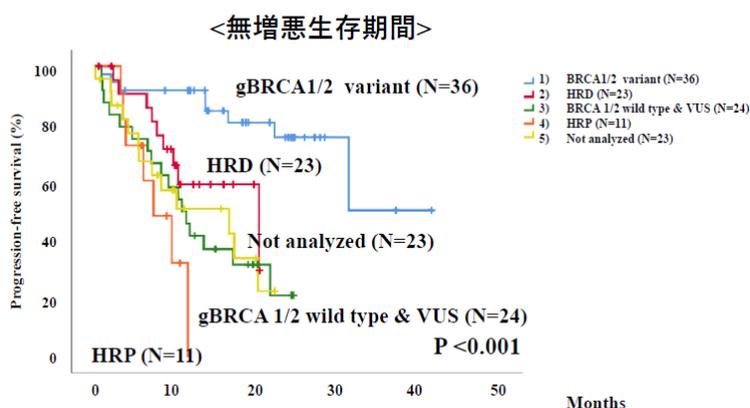


コンパニオン診断

2023年、中国四国産婦人科学会の協力の元、中国四国産婦人科施設でのMyChoice®診断システムならびにBRCAAnalysis診断システムを施行した患者の予後調査を行い、gBRCA1/BRCA2遺伝子バリエーション患者がその他患者と比較して、予後良好であったことを報告した(図.1)。

1) 今後も益々、コンパニオン診断を用いた個別化医療治療が増え、より効率的な治療法が選択されることが考えられる。

図1. MyChoice®診断ならびにBRCAAnalysis診断システムと予後評価



【参考文献】

1) Nakamura K, Matsuoka H, Yorimitsu M, et al. Efficacy and safety of olaparib, olaparib plus bevacizumab and niraparib maintenance treatment in Japanese patients with platinum-sensitive advanced ovarian cancer..Jpn J Clin Oncol. 2024;54(1):31-37.

寄稿者 中村 圭一郎 (なかむら けいいちろう) 先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 産科・婦人科学教室 准教授